

# 平成 2 3 年度病害虫発生予報第 1 号

平成 2 3 年 4 月 7 日  
鳥取県病害虫防除所

## 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	発生時期	予想発生量
普通作物	イネ	苗立枯病 ばか苗病 イネシンガレセンチュウ	- 平年並 平年並	平年並 やや少ない 少ない
	オオムギ	赤かび病 うどんこ病 網斑病	遅い - -	平年並 やや少ない やや少ない
果樹	ナシ	黒斑病	平年並	平年並
		黒星病	平年並	平年並
		赤星病	平年並～やや遅い	平年並 (一部やや多い)
		ハダニ類	平年並	平年並
		カメムシ類	平年並	やや少ない
野菜	ラッキョウ	灰色かび病	平年並	平年並
	スイカ、メロン、 タバコ	アブラムシ類	平年並	平年並
	ネギ	べと病	平年並	やや多い

## 気象予報（抜粋）

1 か月予報（4月2日～5月1日：4月1日、広島地方気象台発表）

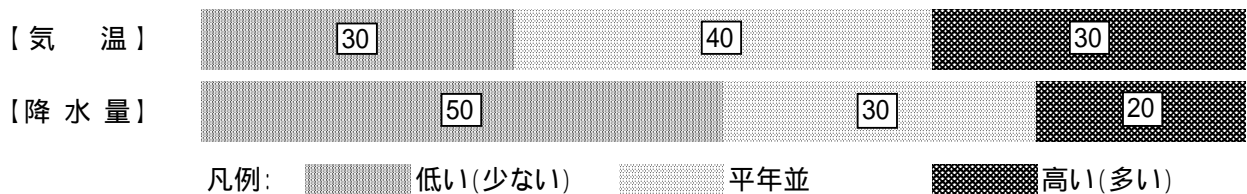
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

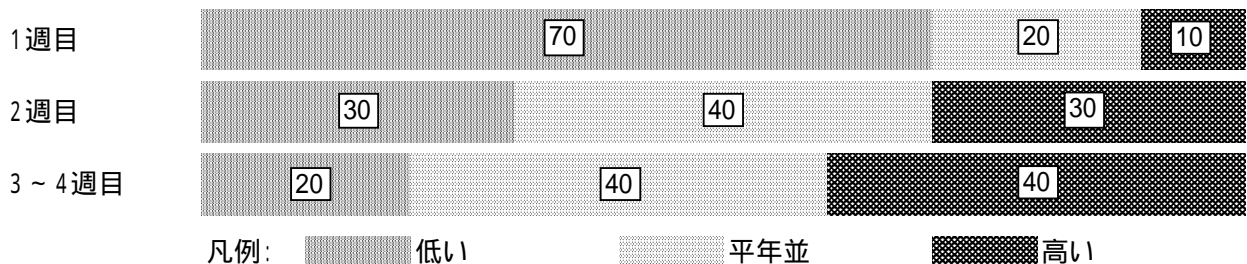
向こう1か月の降水量は、少ない確率が50%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率70%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

< 向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率 (%) >



< 気温経過の各階級の確率 (%) >



## 普通作物

### [イネ]

#### 1 苗立枯病

##### (1) 予報の内容

発生地域 県内全域  
発生量 平年並

##### (2) 予報の根拠

ア 苗立枯病の予防防除が広く普及している。  
イ 向こう1か月の気象予報から発生量は平年並と予想される。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 発病後の防除は困難であるため、予防防除を徹底する。  
イ 育苗環境を清潔に保ち、育苗中の温度管理及び水管理に注意する。  
ウ ムレ苗が発生した場合には、タチガレエース液剤の500～1,000倍液  
又はタチガレン液剤の500～1,000倍液を箱当たり0.5リットルかん  
注し、夜間の保温と昼間の遮光に努め、苗の回復を図る。移植可能であれば、  
早めに本田に移植する。

#### 2 ばか苗病

##### (1) 予報の内容

発生地域 県内全域  
発生時期 平年並(育苗期)  
発生量 やや少ない

##### (2) 予報の根拠

昨年の発生はやや少なかったため、本年用種子の保菌率は低いものと推測される。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。  
イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。  
ウ 温湯種子消毒にあたっては、消毒時間、温度などを厳守する。消毒後の種子  
を保管する場合には、種子を十分に乾燥させ、清潔な冷暗所に保管する。浸種  
を行う場合には、必ず水道水を使用し、適宜、水の交換を行う。  
エ 薬剤による種子消毒(低濃度長時間浸漬)にあたっては、薬液がよく浸透す  
るように網袋にゆとりを持たせる。また、薬液の温度が10以下にならない  
ように注意する。消毒後の浸種は停滞水中で行い、水の交換は原則として行わ  
ないが、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは静かに換水す  
る。なお、薬剤については、病虫害防除指針などを参考にする。

#### 3 イネシンガレセンチュウ

##### (1) 予報の内容

発生時期 平年並  
発生量 少ない

##### (2) 予報の根拠

昨年の本種による葉先枯れ症状の発生は少なかったため、汚染籾率は低いもの  
と推測される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。
- イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。
- ウ 温湯種子消毒については、ばか苗病に準じる。
- エ 薬剤による種子消毒（低濃度長時間浸漬）の場合、ばか苗病防除薬剤と本種防除薬剤の混用により同時防除が可能であるが、各薬剤の使用濃度が異なるので注意する。なお、薬剤については、病虫害防除指針などを参考にする。

[ム ギ(オオムギ)]

1 赤かび病

(1) 予報の内容

発生地域	県内全域
発生時期	遅い
発生量	平年並

(2) 予報の根拠

- ア 二条オオムギ、六条オオムギとも出穂期は遅いと予想されている。
- イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 六条オオムギは、二条オオムギに比べて本病が発生しやすいので注意する。
- イ 発病後の防除は困難であるため、病虫害防除指針などを参考にして薬剤による予防防除を行う。防除適期は、二条オオムギでは穂揃い期の10日後ころ、六条オオムギでは開花を始めた時期～開花期、及びその7～10日後である。

2 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生地域	県内全域
発生量	やや少ない

(2) 予報の根拠

これまでの気象推移及び向こう1か月の気象予報から、発生量はやや少ないものと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 葉色が濃い過繁茂のほ場では、多発生の恐れがあるので注意する。
- イ 発生がみられる場合には、病虫害防除指針などを参考にして薬剤による防除を行う。
- ウ 農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。

3 網斑病

(1) 予報の内容

発生地域	県内全域
発生量	やや少ない

(2) 予報の根拠

これまでの気象推移及び向こう1か月の気象予報から、発生量はやや少ないものと予想される。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

- ア 葉色が濃い過繁茂のほ場では、多発生する恐れがあるので注意する。
- イ 発生がみられる場合には、病害虫防除指針などを参考にして薬剤による防除を行う。
- ウ 農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。

## 果 樹

### [ ナ シ ]

#### 1 黒斑病

( 1 ) 予報の内容

発生時期 平 年 並  
発生量 平 年 並

( 2 ) 予報の根拠

ア ナシ園における越冬菌密度調査の結果によると、短果枝の病芽率及び一年枝上の枝病斑数はほぼ平年並であった。一部では越冬菌密度の高い園が認められた。

イ ナシの生育はほぼ平年並である。

ウ 向こう 1 か月の気象予報では、平年に比べて晴れの天気が多いと見込まれており、発生はほぼ平年並と推察される。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 開花前～人工交配終了後に、伝染源となる病芽の除去を徹底する。

イ 開花期に病原菌が雌しべに侵入することがあるので、開花前～人工交配直後の薬剤防除を徹底する。

ウ 薬剤は、開花始めにチウラムフロアブル(トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル) 500 倍液など、人工交配終了後にフロンサイドSC2, 000 倍液又はベルコートフロアブル1, 500 倍液など、落花期に有機銅フロアブル(キノンドーフロアブル又はドキリンフロアブル) 1, 000 倍液などを散布する。

#### 2 黒星病

( 1 ) 予報の内容

発生時期 平 年 並  
発生量 平 年 並

( 2 ) 予報の根拠

ア 県内巡回調査園(幸水及び豊水)における病芽率は1.6%(平年:1.5%)で、平年並であった。

イ 昨年の本病の発生は全般的にやや多く、一部では病芽率などの越冬菌密度の高い園が認められる。

ウ 越冬伝染源からの胞子の飛散は3月下旬から始まっており、飛散開始時期は平年並であった。

エ ナシの生育はほぼ平年並である。

オ 向こう1か月の気象予報では、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれており、発生を助長しない。

(3) 防除上注意すべき事項

ア りん片の脱落の悪い腋花芽は芽基部病斑を形成しやすく、本病の伝染源となるので、これらを開花始め～落花期に見回って切り取っておく。

イ 開花期に降雨が続くと多発しやすいので、開花前～落花期の防除を徹底する。

ウ 薬剤は、開花始めにアンビルフロアブル1,500倍液など、落花期にE B I水和剤(スコア顆粒水和剤又はオンリーワンフロアブルなど)4,000倍とチウラムフロアブル(トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル)500倍の混用液などを散布する。

3 赤星病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並～やや遅い

発生量 平年並(一部やや多い)

(2) 予報の根拠

ア 県予察ほ場(東伯郡北栄町)のビヤクシン上における冬孢子堆の形成量は、平年並であった。

イ 4月6日現在、伝染源となるビヤクシン上の冬孢子堆の膨潤は0%で、膨潤程度は平年並～やや遅い。

ウ ナシの生育はほぼ平年並である。

エ 向こう1か月の気象予報から、平年よりも降雨が少ないと見込まれるため、発生量は平年並になると推察される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 果樹園の近くにビヤクシン類が植栽され、4月中～下旬に雨が多い場合、発病しやすくなる。

イ 近年、生け垣などにビヤクシン類が植栽されている地域では、本病の発生がやや目立っている。

ウ 冬孢子堆の膨潤と小生子の飛散最盛期は、例年、満開前後の降雨直後となるので、この時期の防除を徹底する。

エ 薬剤は、開花始めにアンビルフロアブル1,500倍液など、落花期にE B I水和剤(スコア顆粒水和剤又はオンリーワンフロアブルなど)4,000倍とチウラムフロアブル(トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル)500倍との混用液などを散布する。

オ 5月以降に葉の発病がみられる場合は、E B I剤(スコア顆粒水和剤4,000倍液、オンリーワンフロアブル4,000倍液、アンビルフロアブル1,500倍液など)を追加散布する。

4 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 県内巡回調査園におけるハダニ類の越冬密度は、平年並～少なかった。

イ ナシの生育はほぼ平年並である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 蕾や葉にハダニ類の発生が認められた場合は、開花始めまでにカネマイトフロアブル1,500倍液などを単用散布する。

イ ハダニの発生が多く認められる園では、薬液が葉裏によくかかるように丁寧に散布する。

5 カメムシ類

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

クサギカメムシの越冬成虫数(簡易小屋トラップ)は、1トラップ当たり0.8頭(平年:8.2頭)で、平年と比較してやや少ない。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 山間地及び民家近くの果樹園で例年発生が認められる園では、春期の被害が予想されるため、成虫の飛来を注意して観察する。

イ ナシ園への飛来が認められた場合は、直ちにジノテフラン水溶剤(アルバリン顆粒水溶剤又はスタークル顆粒水溶剤)2,000倍液などを追加散布する。

## 野菜

### [ラッキョウ]

1 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 3月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年並である。

イ 本病は4月の気温が高く、5月に低温多雨の条件で発生が増加しやすい。向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 4月下旬まで、ロブラール水和剤1,000倍液、カンタスドライフロアブル1,500倍液、ダコニール1000の1,000倍液などを輪番で散布する。

イ 降雨後には、枯れた葉上に多数の分生胞子を形成するので、降雨後の防除を徹底する。

ウ 茎葉が過繁茂となったラッキョウは、株元に薬液がかかりにくい状態となっているので、丁寧に散布する。

## [ スイカ、メロン、タバコ ]

### 1 アブラムシ類

#### ( 1 ) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

#### ( 2 ) 予報の根拠

ア 県予察ほ場（東伯郡北栄町、露地ほ場）における黄色水盤への有翅虫の初飛来は、4月1日現在確認されていない。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生時期及び発生量は平年並であると予想される。

#### ( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア ハウスの換気部分や出入口には寒冷紗被覆を行い、アブラムシ類の侵入防止に努める。

イ 葉裏を注意して観察し、初期防除を徹底する。

ウ スイカにおいて、ハウス栽培では交配前にミツバチへの影響のないチェス顆粒水和剤5,000倍液を散布する。トンネル栽培ではつる引き誘引時期に、チェス顆粒水和剤5,000倍液を、交配前にバリアード顆粒水和剤4,000倍液を散布する。

エ メロンでは、チェス顆粒水和剤5,000倍液、バリアード顆粒水和剤4,000倍、モスピラン水溶剤8,000倍液などを散布する。

オ タバコの近隣にジャガイモを栽培している場合は、タバコ黄斑えそ病の伝染源となるので、掘り残しイモをすべて除去する。また、ジャガイモやタバコを透明寒冷紗などにより被覆栽培するなどして本病の伝染を防ぐ。

## [ ネギ ]

### 1 べと病

#### ( 1 ) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 やや多い

#### ( 2 ) 予報の根拠

ア 4月上旬現在、現地ネギほ場において本病の発生は認められていない。

イ 前年に県内全域で本病が多発したことから、病原菌密度は高いと考えられる。

ウ 本病は、15位で降雨が続くと発病が増加する。向こう1か月の気象予報から、多発生条件にはならないと予想される。

#### ( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 発病後の蔓延は早いので、発病前からの防除に努める。

イ 薬剤はランマンフロアブル2,000倍液、アリエッティ水和剤800倍液、ペンコゼブフロアブル600倍液などを予防散布する。

ウ 発病を認めたら直ちに、リドミルMZ水和剤1,000倍液、フォリオブラボ顆粒水和剤1,000倍液、プロポーズ顆粒水和剤1,000倍液、フェスティバルC水和剤1,000倍液などを散布する。

エ 同一成分を含む薬剤は連用しない。また、成分ごとの総使用回数に注意して薬剤を選定する。

**[おしらせ]**

**農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散には十分注意しましょう。**

詳しい農薬の登録内容は、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」(<http://www.acis.famic.go.jp/>) から検索できます。

なお、農薬の使用や防除指導等に際しては、農薬のラベルを必ず御確認ください。

**< 鳥取県病害虫防除所ホームページ >**

**アドレス** <http://www.jpnpn.ne.jp/tottori/>

病害虫発生予察情報や病害虫の診断方法などの情報をお知らせしていますので、御利用ください。

鳥取県病害虫防除所

〒680-1142 鳥取市橋本 260

TEL : 0857-53-1345、FAX : 0857-53-0723

E-mail : boujyot@titan.ocn.ne.jp

次回予報第2号の発表は、4月26日(火)の予定です。